

令和2年度 第2回 鶴岡市地域医療を考える市民委員会 (会議概要)

○ 日 時 令和2年 11月13日(金) 午後1時30分から3時30分

○ 会 場 鶴岡市総合保健福祉センターにこふる 3階 大会議室

○ 次 第 1 開会

2 あいさつ

3 説明・報告・協議

全体テーマ 「市民の地域医療への理解と普及」

～ 市民への積極的な情報発信と医療ニーズの把握 ～

(1) 講 話

「鶴岡市の医療資源について」

瀬尾医療連携事務所 代表取締役 瀬尾 利加子 氏

(2) 協 議

① 地域医療について市民周知や広報の手法を考える

② 地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには

(3) その他 次回、市民委員会のテーマの検討

4 その他

5 閉 会

○ 出席委員

瀬尾利加子(委員長)、本間志保子(副委員長)、北風寸美、佐藤明美、佐藤和広

土田三香子、原田藤四郎、本間優子、真島正博、水口英俊

秋山美紀(コーディネーター・オンライン参加)、福原晶子(オブザーバー)、迎田健(オブ

ザーバー)、鈴木千晴(オブザーバー)、三科武(オブザーバー)、鈴木聡(オブザーバー)

○ 市側出席職員

健康福祉部長 渡邊健、地域包括ケア推進室長 佐藤清一、地域包括ケア推進室調整専門員

佐藤正、同室調整専門員 帯谷友洋、同室主事 三浦巧、同室保健師 東海林志保、荘内病

院事務部長 佐藤光治、同参事(兼)総務課長 今野一夫

○ 公開・非公開の別 公開

○ 傍聴者の人数 6人

○ 審議事項(グループワーク)

テーマ1:「地域医療について市民周知や広報の手法を考える」

テーマ2:「地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには」

○ 委員発言要旨

テーマ1「地域医療について市民周知や広報の手法を考える」

～ グループワークのまとめ ～

市民への周知について、まずひとつ目として、現在、広報誌などが発行されているが、少し固いのではないかと感じる。もう少し親しみやすく、柔らかい内容があっても良いのではないか。それにはまず、キャラクターやマスコットを入れて、これがこの内容のキャラクターやマスコットですと表示し、市民が一目でわかるような内容にしたらどうか。

次に、情報を得る手段として、紙媒体の方もいれば、若い世代は SNS 等で情報を取得する場合もあり、地域の行事に集まってくださいと周知しても、なかなか若い人が集まることが難しい。地域の保健衛生推進員や民生委員を中心に、地域の方に情報を周知してもらい、地域全体で地域医療への理解を広げていく活動が必要と思う。

以上がグループで出された意見。

委員長：先ほど私が説明した「鶴岡市の医療資源について」の内容は知ってもらいたいし、地域医療について伝えたいことはたくさんあるという話も出た。またキャッチフレーズ、キャラクターも市民から募集した方がよく、キャッチフレーズも見てもらおうよう工夫し、見たいと思えるような広報誌を作って行ければ良いと思う。

地域で地域医療についてお話が出来る人を育てることが必要で、地域での役割と人材育成が課題となる。女性センターの講座を活用するのも1つの方法。また、若者と高齢者では集まれる時間帯も違うし、見るものも違う、興味関心も違うので、そのような調査も必要なのではないか。このようなことをアンケート調査したらいいのではないかという話が出た。

コーディネーター：鶴岡市はとても面積が広いので地域性の違い、あとは年齢層の違いのよって出て来るニーズや感じていることが違うと思う。アンケート調査はそうした背景の異なる市民の皆さんがどのように考えているのかというのが把握できるようなものになればよいと思う。

委員：荘内病院の広報誌「黎明」は、荘内病院の広報の担当の方が作るのか。

事務局：荘内病院の中に総務課という部署があり、そこに広報をつくる担当者がおり、また院内の各部署に広報委員がいて、その委員会で年2回発行している。

委員：鶴岡市の広報に看護学生のコロナの差別や誹謗中傷に関するメッセージリレーが掲載されており、今、看護を学んでいる看護学生の言葉がとても感動し心に残り、こういう伝え方がいいと思った。

事務局：新型コロナ感染症に関して、いろいろ差別や偏見が社会的に問題になっていることを受け、そのような差別、偏見をなくす取り組みとして、市の広報を活用し、いろいろな立場の方からメッセージをお寄せいただいている。

医療従事者に対する差別、偏見もあるようで、市で看護学生の立場として差別、偏見の防止に向けたメッセージをいただけないかとお願いし、このたび純粋な気持ちで我々としても励まされるようなメッセージが掲載された。評価していただき、ありがとうございます。

テーマ2「地域医療に関するアンケートやデータ収集を実施するには」

～ グループワークのまとめ ～

アンケート調査をするにあたって、まず何をアンケートで知ることを目的とするかが重要で、現行の地域医療に関する市民の満足度、現在や未来にわたりどのようなことを医療機関に求め

ていくかなどのニーズ調査、また地域医療に関してどのような知識を持っているかという知識量といった3点がポイントに挙げられる。

満足度とニーズという点に関しては、添付資料の7にある岡山県高梁市のアンケートなどを参考にしながら、回答する市民の方々それぞれに医療に関して背景(医療資源の偏在、家族構成など)が違うので、医療を今後考えていくうえで、医療機関に対する満足度、ニーズという点も調査が必要であるとの話し合いになった。また、オンライン診療を今後活用するとか、セカンドオピニオンの仕組みの理解など、今後の方向性に役立てられるようなアンケート調査、データのフィードバックを考えていかなければならないと思う。

知識量の部分に関しては、アンケートを取り、皆さんがどのくらい地域医療に関して知識があるのかということ把握し、その後6か月ほど広報等により地域医療について周知したのちに、再度同じアンケートを取り、どのくらい周知できたかを把握する手法が有効という話が出た。

以上がグループで出された意見。

委員長：いつ頃、アンケート調査をするという、そういう時期的な話はあるか。

委員：そこまでの話は進んでいない。事務局が素案を作成し、それを委員が検討する流れを予定。

○次回、市民委員会のテーマについて

- ① 今回の第4回の内容をより具体的に深め、アクションに移せるようにすること。
- ② 市民勉強会のあり方を考える

～市民公開ワークショップの開催に向けて運営方法等を検討する～